

令和 7 年度 第三セクター経営状況確認シート

①～④を各団体で記入

⑤を市所管課で記入

① 団体の基本情報	団体名	公益財団法人所沢市文化振興事業団				出資金	200,000 千円		設立年月日	平成4年7月23日		
						出資比率	市 100 %		所管課	市民部 文化芸術振興課		
	団体の設立目的	音楽、演劇をはじめとする優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する催事等の場を提供することにより、芸術文化と地域コミュニティの振興を図り、もって地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。										
	組織の状況 (令和6年4月1日現在)	役員数 (うち常勤数)					職員数 (うち常勤数)					備考
		プロパー	市現職	市OB	その他	合計	プロパー	市現職	市OB	その他	合計	「役員数」に評議員は含まない。評議員数7名(うち1名は副市長)
	0	3	1	10	14	12	0	0	6	18		
	(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(12)	0	0	(6)	(18)		
市の関与 (財政的、人事的 つながり など)	「所沢市民文化センター ミューズ(以下「ミューズ」)」の指定管理者として、所沢市からの指定管理料を財源にミューズの管理運営を行うほか、様々な芸術文化事業の実施により地域の活性化を図る事業を展開している。実施する自主事業(クラシック・ポピュラー・演劇・寄席等)については、設立当初より利用料金制度を導入し、その収入(施設利用料金等)及びチケット料金収入等を財源としている。市の人事的関与は次のとおり。市長=理事長、市現職=理事2名、市OB=常務理事(兼事務局長)1名。											
事業の具体的な内容及び実施方法	1993(平成5)年のミューズ開館に伴い、施設の管理運営及び地域の芸術文化の振興を図る財団法人として発足、2013(平成25)年4月に公益財団法人へ移行。2006(平成18)年度から指定管理者としてミューズの運営(2006(平成18)年度より3年間、2009(平成21)年度より3年間、2012(平成24)年度より5年間、2017(平成29)年度より1年間、2018(平成30)年度より4年間、2022(令和4)年度より5年間)を行っている。 事業団が実施する主な事業内容は以下のとおり。 ① 優れた芸術文化の提供・発信(音楽・演劇・伝統芸能等の自主事業等の実施) ② 文化振興を通じての豊かな社会づくり(市内の商業施設や教育機関との連携によるアウトリーチ事業等の実施) ③ ミューズの運営及び貸館業務(利用者サービスの充実、安全・安心な施設運営)											

(単位:円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常収益	437,293,609	591,474,257	683,710,104	777,515,970	759,218,826
経常費用	478,253,474	573,412,416	650,541,194	741,514,368	715,853,549
経常増減額	△ 40,959,865	18,061,841	33,168,910	36,001,602	43,365,277
総資産額	633,276,798	668,788,919	728,380,394	743,676,997	835,136,760
純資産額	427,259,381	444,014,056	477,182,966	513,184,568	556,549,845
市補助金	0	0	23,058,000	14,005,000	0
市委託料	304,480,000	306,039,000	327,716,000	329,314,060	333,159,000

	項目名	単位	R2	R3	R4	R5	R6
③ 活動実績	ミューズ 利用者数	人	99,967	210,956	311,978	390,694	365,229
	ミューズ 施設利用率	%	49.0	66.5	73.3	73.8	70.2
	自主事業本数	本	54	57	65	91	82
	自主事業入場者数	人	17,378	39,209	47,499	84,210	67,648
改善内容	<p>◎自主事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽、パレエ、寄席、演劇、伝統芸能など、多彩なジャンルの公演を実施し、アートの方で笑顔あふれる未来の創造に取り組んだ。 パートナーシップを結ぶズーラシアンプラスのほか、所沢市教育委員会、劇団四季と連携し、若い世代が優れた芸術文化に触れる機会を提供した。 地元芸術団体(NBA/パレエ団、重松流祭囃子)や地元ゆかりのアーティスト(塚塚信也、RINAなど)、KADOKAWAとの連携により地域の芸術文化の活性化を図った。 事業当日の運営を補助する「サポートスタッフ」の活動を継続するとともに、市内の小中学生による「こどもおもてなし隊」の活動を開始した。 市内特別支援学校や、エミテラス所沢に Outreach、音楽の魅力により身近に感じていただく機会を提供した。 <p>◎ミューズの運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> お客様に安心して施設をご利用いただけるよう、職員のお客様対応力研修やバリアフリーコミュニケーションの実践研修を行った。 一般のお客様に会場いただく公演形式の避難訓練を実施し、お客様の避難経路を改めて確認するとともに、館内スタッフの避難誘導等の災害時対応スキルの向上を図った。また、地震や火災、爆破予告等への緊急事案にスタッフが迅速に対応できるよう「MUSE危機管理マニュアル」を作成した。 お客様の利便性の向上を図るため、施設利用受付窓口でカード決済の端末を設置した。(2025年4月より運用開始) 来館者の安全に配慮しながら、徹底した節電を行った。 レストランで所沢ゆかりのアーティストによるイベントを開催し、出演者とのコラボメニューを展開するなど特色ある運営を行った。 PFI事業者及び運営に携わる関連部署と定期的に「運営担当者会議」を実施し、運営上の課題共有と解消を図った。 						

④ 事業概況	事業の経過及び成果	令和4～8年度(5年間)の運営方針“Management Policy 2022-2026”に基づき、市の文化振興に引き続き寄与している。 ◎自主事業においては、国内外のアーティストによる公演を積極的に実施し、幅広い世代に芸術文化の楽しさや魅力を届け、過去最高の入場料収入を記録、メンバーズ倶楽部会員数も過去最高である。 ◎施設運営においては、引続き、市及びPFI事業者および運営関連部署と連携体制を構築し、安全・安心な施設運営を行っている。
	対処すべき課題	◎燃料費や物価の高騰に対応するため、徹底した節電をはじめとする経費削減と収入増および自主財源確保 ◎ミューズが使いやすい施設であり続けるためのPFI事業者や関係各所との情報共有と連携の更なる強化 ◎芸術文化を通して豊かな社会づくりに貢献し、地域を活性化するための地域連携事業拡充 ◎ファン層拡大に向け、ファミリーや若い世代(10～30代)をターゲットとした事業の実施 ◎ミューズの魅力を市内外へ広めるための積極的な情報発信 ◎多発するミューズの設備等への修繕対応

⑤所管課評価

必要性の視点	文化振興事業団の設立目的である「優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する」ことは、市の総合計画にも位置付けられた重要な施策に沿うものであり、事業実績・ノウハウを持つ文化振興事業団の存在意義は大きく、引き続き必要である。
効率性の視点	施設利用率は全国平均と比較しても高い水準を維持しており、良質のサービスを継続的に提供できる団体であると判断できる。しかし、当該施設の運営経費として市から支出している指定管理料を考慮すると、市民への質の高い芸術の提供という当該施設の使命と収益性のバランスを取りながらも、さらなる効率的な運営が求められる。
自立性の視点	令和3年度以降は経常収益が経常費用を上回る財務状況で安定的な経営がされており、市の出損金を使うことや追加の委託料が発生していないことから、財務的観点として独立性があると言える。